

病院の国際化における外国人患者対応の現状と課題

-看護管理の視点からの提言創出-

背景 2010年閣議決定で、外国人患者受入れは国家戦略プロジェクトに位置づけられた。インバウンド医療国際展開が加速されている中、看護管理（医療安全と看護の質）の視点からの検討が急がれる。

目的 急増する外国人患者の対応で困っていることに関する先行研究を踏まえ、多様化するわが国の医療・看護の質の向上と安全につながる看護管理の役割発揮できる提言を創出する。

企画内容の要約

1. 企画グループで取り組んだ全国調查看護師約 7,500 名の結果から、外国人患者の対応で困っている看護職の体験の実態と課題を検討する（プレゼン、質疑応答）（15分）。
2. ワールドカフェにより、参加者 7～8 名とファシリテータのグループを 5～6 グループ編成し、「病院の国際化における外国人患者対応」に関する現状と課題、看護管理の役割について討論をすすめる（25分）。
3. 全体討議により、ディスカッションを踏まえた看護管理からの提言をまとめる（20分）。

ディスカッションポイント 病院における国際化施策は進められてきているが、その課題解決方法に看護の視点が含まれることは少ない。全国調査結果から概念化された看護職のカルチュラル・コンピテンスの能力開発領域（図 1）および、イラスト化された看護場面設定やアプリを参考に、多様化するわが国の医療・看護の質の向上と安全につながる看護管理の役割発揮できる提言を創出する。

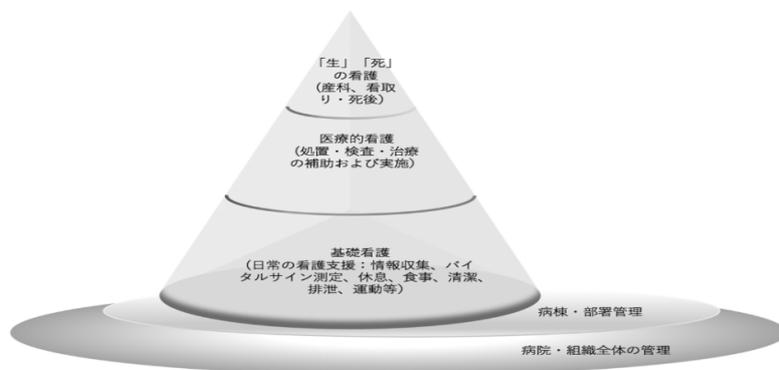


図 1. 看護職のカルチュラル・コンピテンスの能力開発領域（野地，野崎他，2017）